科目名	機材メンテナンスⅠ			担当講師	福岡　博美
講師実務経験	音響/録音エンジニア				
対象学年	1　学年	対象専攻	スタジオレコーディング専攻	授業形態	実習
期　間	3期・4期	総授業回数	14	1回あたりの授業時間	135　分

期	修　得　目　標
3期	XLRコネクタを使用したケーブル作成の下処理を修得する。
4期	XLRコネクタを使用したケーブル作成のはんだ付けを修得する。

回数	日程	【授　業　計　画】
1	10月17日	授業ガイダンス/XLRコネクタのしくみについて/使用部材 工具の説明
2	10月24日	ケーブルの被覆剥き①
3	10月31日	ケーブルの被覆剥き②
4	11月7日	予備はんだについて
5	11月14日	実技修得度確認①
6	11月21日	ケーブルの被覆剥き③
7	11月28日	はんだ付け練習①
8	12月5日	はんだ付け練習②
9	12月12日	はんだ付け練習③導通チェック テスターの使用方法
10	1月16日	音響機材のしくみとメンテナンス① スピーカー、ヘッドフォン、ミキサーなど
11	1月23日	音響機材のしくみとメンテナンス② スピーカー、ヘッドフォン、ミキサーなど
12	1月30日	XLRコネクターはんだ付け全行程実技修得度確認②
13	2月6日	XLRコネクターはんだ付け全行程実技修得度確認③
14	2月13日	前期講義まとめと試験対策

評価方法	定期試験点数(50%)実技修得度（50%）平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）
	※実技修得度評価時期・方法：修得度確認作業あり
評価	上記総合評価点　S(100-90)　A(89-80)　B(79-60)　C(59-50)　D(49以下 不可)
テキスト	なし
注意事項	42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）

科目名	就職ガイダンス			担当講師	一岡永
講師実務経験	音響会社勤務				
対象学年	1　学年	対象専攻	1年A組、B組	授業形態	講義
期　間	3期・4期	総授業回数	14　回	1回あたりの授業時間	45　分

期	修　得　目　標
3期	企業情報を収集し、就職計画を立てる。 応募書類を理解し、受験への備えを修得する。
4期	エントリーに向けた一連の流れを修得する。

回数	日程	【授　業　計　画】
1	10月17日	就職用写真の撮影準備について/自己PR作成のポイント
2	10月24日	求人検索方法、就職支援サイト利用方法について/志望動機作成のポイント
3	10月31日	応募条件について考える/志望動機、自己PR作成①
4	11月7日	志望動機、自己PR作成②
5	11月14日	履歴書作成練習
6	11月21日	エントリーシートの質問項目と解答例
7	11月28日	応募書類について
8	12月5日	進路について考える
9	12月12日	就職希望調査書配布説明
10	1月16日	履歴書作成練習
11	1月23日	筆記試験対策（一般常識）/エントリーシート作成練習
12	1月30日	筆記試験対策（SPI）/エントリーシート作成練習
13	2月6日	面接対策
14	2月13日	春休み中に出来る事/3月の求人公開に向けて

評価方法	3分の2以上の出席で「修得済」評価
評価	「修得済」評価（点数評価は行わない）
テキスト	プリント配布
注意事項	14時間中5時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません（留年となります）

科目名	時事研究			担当講師	國本　昌秀
講師実務経験	元HTB北海道テレビ勤務（記者・デスク、ディレクター、プロデューサーなど）				
対象学年	1　学年	対象専攻	1年A,B組	授業形態	講義
期　間	後期	総授業回数	13　回	1回あたりの授業時間	45　分

期	修　得　目　標
3期	ニュース・時事問題を読み解くことで、日常生活の思考・行動への活用法を修得する。
4期	ニュースを日常生活の思考・行動に活用し、成人としての視野を修得する。

回数	日程	【授　業　計　画】
1	10月17日	授業ガイダンス　習得目標について
2	10月24日	岸田政権就任1年
3	10月31日	直近のニュースについて
4	11月7日	直近のニュースについて
5	11月14日	直近のニュースについて
6	11月21日	直近のニュースについて
7	11月28日	直近のニュースについて
8	12月5日	2022年ニュース振り返り①
9	12月12日	2022年ニュース振り返り②
10	1月16日	2023年はどんな年
11	1月23日	直近のニュースについて
12	1月30日	直近のニュースについて
13	2月6日	直近のニュースについて
14	2月13日	講義振り返り

評価方法	定期試験点数、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）
評価	上記総合評価点　S(100-90)　A(89-80)　B(79-60)　C(59-50)　D(49以下 不可)
テキスト	各回授業でプリント配布
注意事項	14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）

科目名	MA実習Ⅱ			担当講師	田苅子　和之
講師実務経験	音楽・番組制作会社勤務				
対象学年	1　学年	対象専攻	スタジオサウンド　専攻	授業形態	実習
期　間	3期・4期	総授業回数	14　回	1回あたりの授業時間	270　分

期	修　得　目　標
3期	MA作業の理解と、付随する特殊用語の習熟、及び、音声・映像に関する知識を修得する。
4期	音声編集、同期関係、作業の向上を目標とし、MA作業の知識と技能を修得する。

回数	日程	【授　業　計　画】
1	10月18日	授業ガイダンス／MA作業準備について
2	10月21日	MA作業準備 ／ 整音について（1）
3	11月1日	ナレーション・アフレコについて（1）
4	11月8日	ナレーション・アフレコについて（2）
5	11月15日	ナレーション・アフレコについて（3）
6	11月22日	整音について（2）
7	11月29日	音楽・効果音の仕込みについて（1）
8	12月6日	音楽・効果音の仕込みについて（2）
9	12月13日	音楽・効果音の仕込みについて（3）
10	1月17日	音楽・効果音の仕込みについて（4）
11	1月24日	整音／ミックスについて
12	1月31日	実技習得度判定試験対策
13	2月7日	実技習得度判定試験
14	2月14日	定期試験対策／まとめ

評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度（70%）平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）
	実技習得度評価時期・方法：B　4期・実技試験実施による評価
評価	上記総合評価点　S(100-90)　A(89-80)　B(79-60)　C(59-50)　D(49以下 不可)
テキスト	プリント配布
注意事項	84時間中 29時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません（留年となります）

科目名	REC実習Ⅱ			担当講師	金沢　琢司
講師実務経験	株式会社スタジオバードマン勤務（平成5年～平成13年）				
対象学年	1　学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻	授業形態	実習
期　間	3・4期	総授業回数	26　回	1回あたりの授業時間	135　分

期	修　得　目　標
3期	スタジオ機材の概要についての知識を修得する。
4期	ProToolsの応用についての知識を修得する。スタジオ機材の概要についての知識を修得する。□

回数	日程	【授　業　計　画】
1・2	10月12日　13日	スタジオシステム（コンソールの基本）
3・4	10月19日　20日	スタジオ機材の概要
5・6	10月26日　27日	スタジオシステム　結線（パッチ盤）の概要～応用
7・8	11月2日　10日	スタジオ機材の概要～イコライザー使い方
9・10	11月9日　17日	ダイナミックス（コンプレッサーの使い方）
11・12	11月16日　24日	ディレイ・リバーブの使い方
13・14	11月30日　12月1日	レコーディングシステムとProToolsHDXシステム構成についての概要～応用
15・16	12月14日　15日	ドラム基本セッテイング（マイクセッテイング・立ち上げ・ラインチェック）
17・18	1月18日　19日	ベース・ギター基本セッテイング（DI・ギターに合うマイク選定・オフマイク）
19・20	1月25日　26日	ヴォーカル基本セッテイング（使い方とレベルバランス・Vo Compの使い方～Edit）
21・22	2月1日　2日	録音実践1（基本セッテイングの構築、マイクプラン・アレンジ・立ち上げ）
23・24	2月8日　2月9日	録音実践2（基本セッテイングの構築、マイクプラン・アレンジ・立ち上げ）
25・26	2月15日　16日	MIX実践1（コンソールを使ってのMIX作業の基本。アウトボードの使用）

評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度（70%）平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）
	評価方法：B
評価	上記総合評価点　S(100-90)　A(89-80)　B(79-60)　C(59-50)　D(49以下 不可)
テキスト	各回授業にてプリント配布
注意事項	78時間中27時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）

科目名	DTM実習			担当講師	作山　厚
講師実務経験	楽曲配信経験 / BGMサイト楽曲提供　/DTMレッスン教室運営経験				
対象学年	1　学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻	授業形態	実習
期　間	3期・4期	総授業回数	12　回	1回あたりの授業時間	135　分

期	修　得　目　標
3期	DAW（Cubase）の基本操作、楽曲の構成、音色の仕組みを修得する。
4期	トレンドを取り入れた曲作りの基礎を修得する。

回数	日程	【授　業　計　画】
1	10月12日	授業ガイダンス / Cubaseの基本操作と実践①
2	10月19日	Cubaseの基本操作と実践②
3	10月26日	トレンドを取り入れた曲作り1-1 ドラムの打ち込み、ベースの打ち込み
4	11月2日	トレンドを取り入れた曲作り1-2 コードの打ち込み、リードの打ち込み
5	11月9日	トレンドを取り入れた曲作り1-3 レイヤーテクニック、曲の構成について
6	11月16日	トレンドを取り入れた曲作り1-4　効果音、エフェクト、オートメーションについて
7	11月30日	コードボイシングについて、コード進行について、定番のコード進行について、音域
8	12月14日	トレンドを取り入れた曲作り2-1 サンプルファイルの活用法、SPLICE　SOUNDとは
9	1月18日	トレンドを取り入れた曲作り2-2　ドラムの打ち込み　リズムパートの強化方法
10	1月25日	トレンドを取り入れた曲作り2-3 ベースの打ち込み、フレーズの作り方、サイドチェイン
11	2月1日	トレンドを取り入れた曲作り2-4　コードの打ち込み　オープンボイシング
12	2月8日	トレンドを取り入れた曲作り2-5 ボーカルチョップ
13	2月15日	楽曲の仕上げ(ミキシング・マスタリングに便利なプラグイン紹介) SNSなどを活用したオリジナル楽曲の配信方法について

評価方法	作品提出評価（100%）平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）
	評価方法：C
評価	上記総合評価点　S(100-90)　A(89-80)　B(79-60)　C(59-50)　D(49以下 不可)
テキスト	
注意事項	39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません（留年となります）

科目名	ProTools実習Ⅱ			担当講師	金沢　琢司
講師実務経験	株式会社スタジオバードマン勤務（平成5年～平成13年）				
対象学年	1　学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻	授業形態	実習
期　間	3～4期	総授業回数	13　回	1回あたりの授業時間	135　分

期	修　得　目　標
3期	ProToolsの概要についての知識を修得する。
4期	ProToolsの応用についての知識を修得する。

回数	日程	【授　業　計　画】
1	10月13日	ProToolsの概要（システムの概要・特徴）
2	10月20日	オペレーション　セッション　トラック　プラグイン
3	10月27日	I/O設定　セッション・トラックの新規作成
4	11月10日	レコーディングモードについて
5	11月17日	オーディオの編集□
6	11月24日	編集ツールについて
7	12月1日	グループの作成と活用
8	12月15日	ミックスの準備について□
9	1月19日	ミックスの進め方
10	1月26日	ProToolsシステム・シンク・MIDI
11	2月2日	ProTools実践1　録音素材を使用しての応用編
12	2月9日	ProTools実践2　録音素材を使用しての応用編
13	2月16日	ProTools実践3　MIX素材を使用しての応用編□
14		
15		

評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度（70%）平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）
	評価方法：B
評価	上記総合評価点　S(100-90)　A(89-80)　B(79-60)　C(59-50)　D(49以下 不可)
テキスト	各回授業にてプリント配布
注意事項	39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）

科目名	SR技術概論Ⅱ	担当講師	森本　信
講師実務経験	レコーディングエンジニア・サウンドデザイナー・ミュージックディレクタープロダクション＆アーティストマネージメントほか		

対象学年	1	学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻	授業形態	座学講義
期　間	3期・4期	総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間	135	分

期	修　得　目　標
3期	音響機器・音楽録音技術を修得する。
4期	音楽制作・検定試験対策を修得する

回数	日程	【授　業　計　画】
1	10月14日	音響機器（音楽スタジオ）
2	10月21日	音響機器（マイクロフォン）
3	10月28日	音響機器（ミキシングコンソール）
4	11月4日	音響機器（エフェクター・レコーダー・モニター）
5	11月11日	録音技術（収録の仕方、作業進行など）
6	11月18日	録音技術（楽器録音、ボーカル録音など）
7	11月25日	録音技術（制作、オーケストラ録音など）
8	12月2日	録音技術（ミキシング概論など）
9	12月16日	音楽著作権
10	1月20日	音楽制作と近代日本の音楽業界
11	1月27日	次世代音響システム
12	2月3日	JAPRS検定試験対策
13	2月10日	JAPRS検定試験対策
14	2月17日	JAPRS検定試験対策と年間まとめ

評価方法	A評価 定期試験（筆記試験）の素点で評価
	平常点±10点（出席率、授業態度、取組状況など）
評価	上記総合評価点　S(100-90)　A(89-80)　B(79-60)　C(59-50)　D(49以下 不可)
テキスト	JAPRSサウンドレコディング技術概論、ほか
注意事項	42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）

科目名	放送音声			担当講師	種田　俊二
講師実務経験	放送局勤務				
対象学年	1　学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻	授業形態	講義
期　間	3期・4期	総授業回数	14　回	1回あたりの授業時間	45　分

期	修　得　目　標
3期	放送(映像作品)における「音声」の重要性を知り、「音声」の原理を理解し修得する。
4期	マイクやレベルメーター、ワイヤレスなど、音声機材の基礎知識を学び修得する。

回数	日程	【授　業　計　画】
1	10月14日	授業ガイダンス
2	10月21日	映像作品における「音声」の大切さについて
3	10月28日	音と音声信号の基礎知識①
4	11月4日	音と音声信号の基礎知識②
5	11月11日	バランスとアンバランスについて①
6	11月18日	バランスとアンバランスについて①
7	11月25日	マイクの基礎知識①
8	12月2日	マイクの基礎知識①
9	12月16日	マイクの基礎知識③
10	1月20日	レベルメーターの種類と原理
11	1月27日	リミッター、コンプレッサーの原理
12	2月3日	カメラ搭載マイクの基礎知識
13	2月10日	ワイヤレスマイクの基礎知識
14	2月17日	総復習・試験対策
15		

評価方法	定期試験点数(100%)平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）
	成績評価方法：A
評価	上記総合評価点　S(100-90)　A(89-80)　B(79-60)　C(59-50)　D(49以下 不可)
テキスト	
注意事項	14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）

科目名	音楽理論	担当講師	作山　厚
講師実務経験	ESP MUSIC SCHOOL ベース講師経験　／　洗足学園魚津短期大学音楽科コントラバス専攻卒		

対象学年	1　学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻	授業形態	講義
期　間	3期・4期	総授業回数	14　回	1回あたりの授業時間	90　分

期	修　得　目　標
3期	音楽の基礎を通して、音符・休符・拍子・音楽記号・各楽器・音階・調号を理解修得する。
4期	楽譜の進行を読み取れるよう修得する。

回数	日程	【授　業　計　画】
1	10月14日	授業ガイダンス　／ 音楽基礎の確認テスト
2	10月21日	音楽基礎①　テストの総評と音楽の基本を復習
3	10月28日	音楽基礎②　音符・休符の種類の復習　／ MIDIやDAWについて
4	11月4日	音楽基礎③　様々な楽器の奏法について
5	11月11日	音楽基礎④　リズムトレーニング①
6	11月18日	音楽基礎⑤　リズムトレーニング②
7	11月25日	音楽基礎⑥ 最新楽曲で使用される音色について
8	12月2日	音楽基礎⑦ コード/ディグリーネーム/ダイアトニックコード
9	12月16日	譜面の理解度チェック
10	1月20日	譜面トレーニング①
11	1月27日	譜面トレーニング②
12	2月3日	コード進行基礎①
13	2月10日	コード進行基礎②
14	2月17日	試験対策

評価方法	定期試験点数、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）
	評価方法：A
評価	上記総合評価点　S(100-90)　A(89-80)　B(79-60)　C(59-50)　D(49以下 不可)
テキスト	
注意事項	28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）